

横浜港 港湾計画一部変更

前回改訂:平成26年11月(目標年次:平成30年代後半)

平成28年2月29日
交通政策審議会
第62回港湾分科会
資料 5

港湾管理者:横浜市



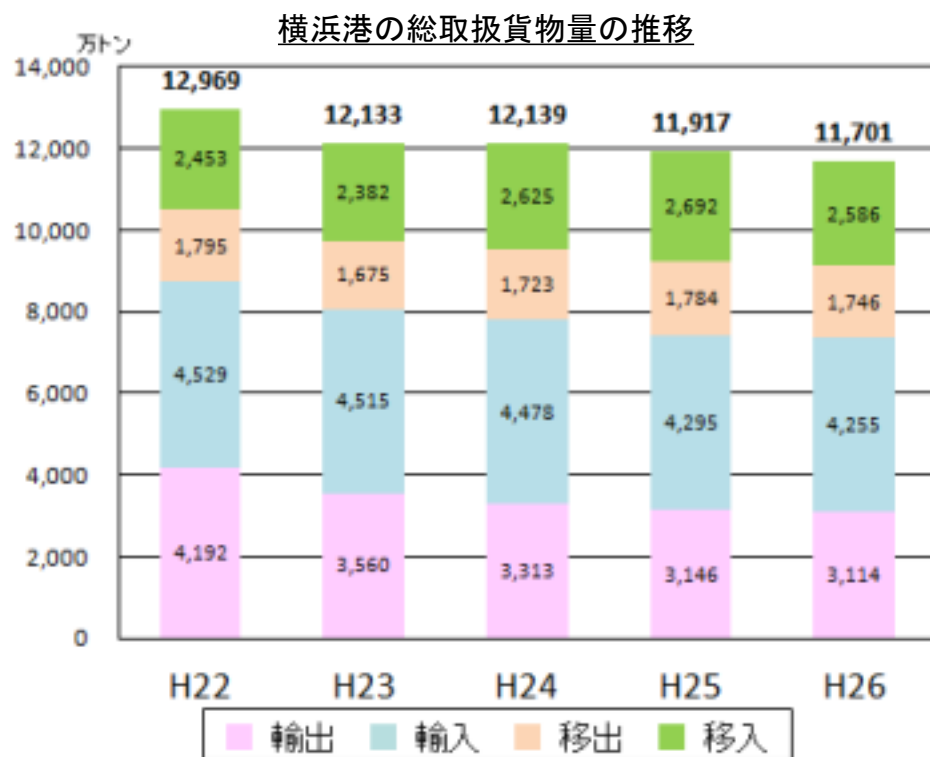
4

横浜港 計画変更箇所

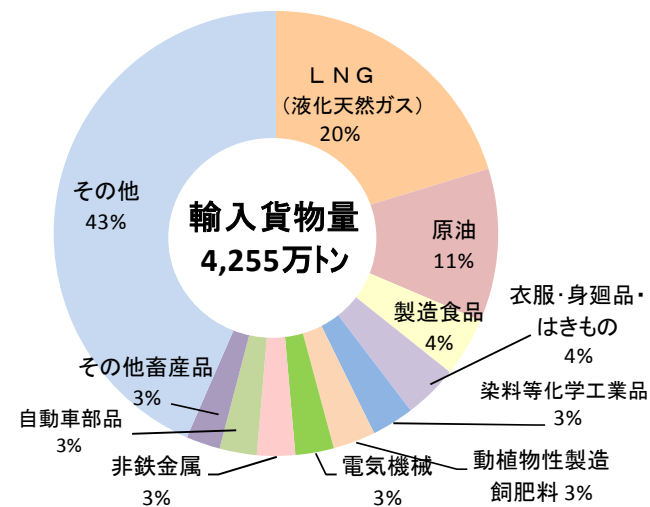
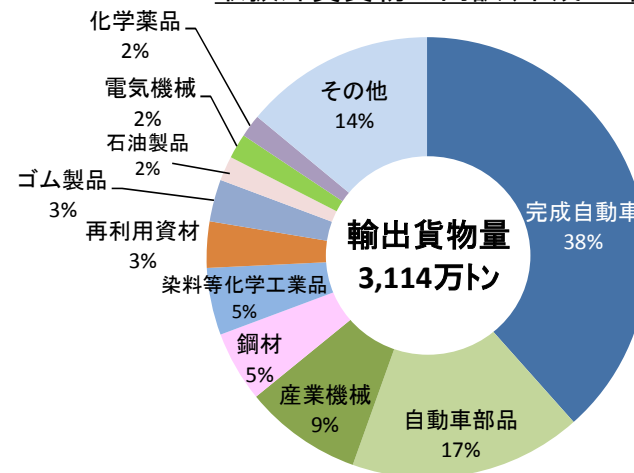


横浜港の概要

○横浜港は、首都圏をはじめ広く東日本地域を背後圏とする国際貿易港として発展するとともに、京浜工業地帯を支える工業港としても重要な役割を果たしている。



取扱外貨貨物の内訳(平成26年)



横浜港の外貨コンテナ船定期航路

平成28年2月現在

航路名	便数	航路名	便数	航路名	便数
北米西岸	8便/週	欧州(北欧)	1便/週	韓国	11便/週
北米東岸・カリブ	1便/週	豪州	4便/週	中国	29便/週
南米	5便/週	東南アジア	32便/週	その他	1便/週

出典: 横浜市港湾局「H26統計横浜港」

今回計画(一部変更)のポイント

自動車専用船の大型化に対応し、自動車取扱岸壁を増深する。

(大黒ふ頭地区)(p4~p6)

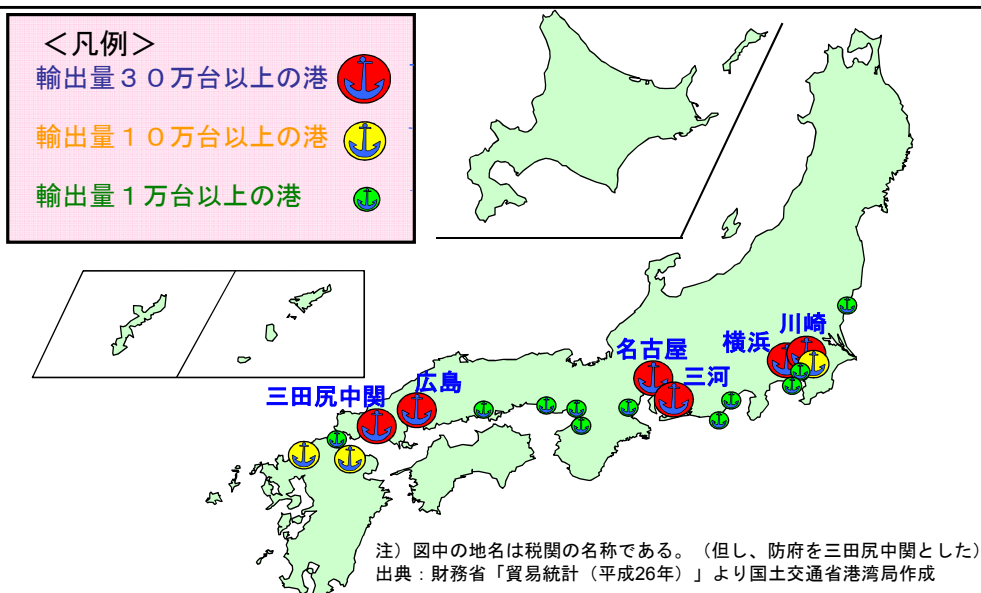
港湾交通の円滑化や周辺交通環境の改善を図るため、将来構想とされている臨港道路を計画に位置付ける。(本牧ふ頭地区)(p7~p8)

山下ふ頭の再開発計画に伴い、臨港道路の線形を変更する。

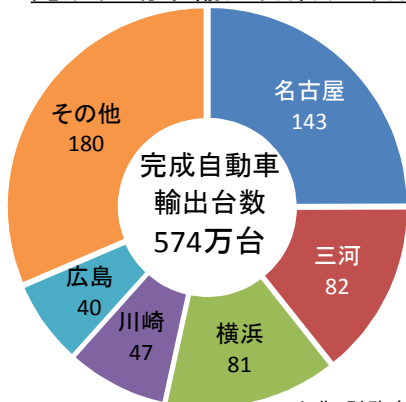
(山下ふ頭地区)(p9)

完成自動車の輸出状況と自動車専用船の大型化

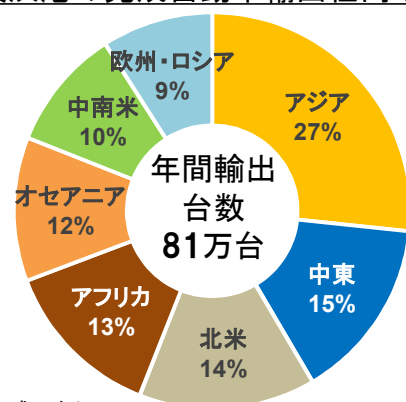
- 横浜港からの完成自動車の輸出台数は約81万台（平成26年実績）で、名古屋港、三河港に次ぐ輸出拠点となっており、アジア地域をはじめ世界各地へ輸出されている。
- 自動車専用船は、6万GT以上（必要岸壁水深-12m）の大型船が増加しており、横浜港では-12mの岸壁の不足により沖待ちが発生している。



完成自動車輸出台数(万台)

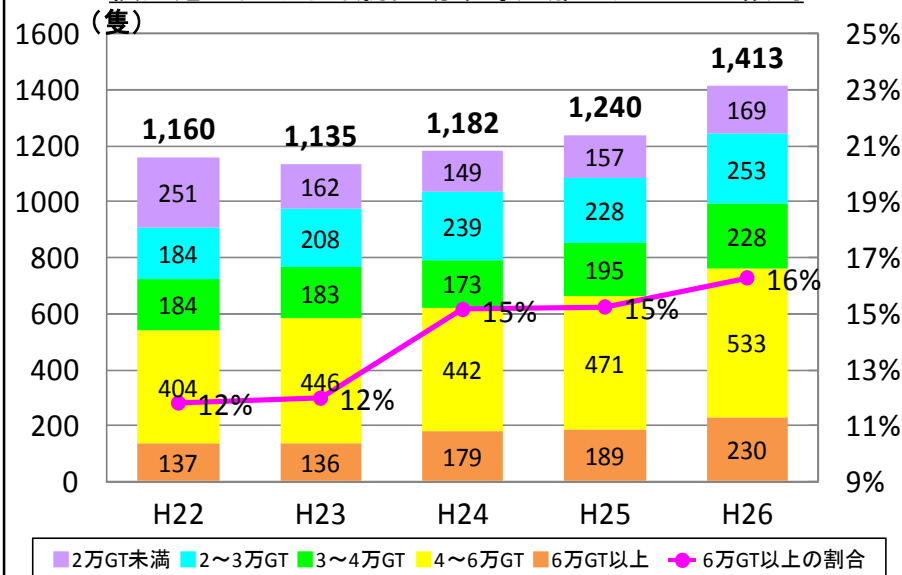


横浜港の完成自動車輸出仕向地



出典: 財務省「貿易統計(平成26年)」

横浜港における外航自動車専用船の大型化の傾向



出典: 横浜市港湾局「統計横浜港」より作成



WALLINIUS WILLMSSENHE社 UNDINE	
総トン数	67,264GT
船長	227.90m
船幅	32.26m
満載喫水	10.30m

大黒ふ頭地区の現状等



計画変更の内容（大黒ふ頭地区）

○自動車専用船の大型化(6万GT以上)に対応するため、岸壁及び航路・泊地の計画を水深-11mから-12mに変更する。



横浜港の臨港道路計画

横浜港周辺の道路ネットワーク



計画変更の内容（本牧ふ頭地区）

- 臨港道路第二南本牧ふ頭幹線の一部区間については将来構想とされているが、この度、関係者との調整が整ったところ。
- 港湾における交通の円滑化や周辺環境の改善を図るため、将来構想とされている臨港道路を港湾計画に位置付ける。



計画変更の内容（山下ふ頭地区）

- 既定の港湾計画において新たな賑わい拠点への再開発を図るとされている山下ふ頭地区について、平成27年9月、「横浜市山下ふ頭開発基本計画」が策定された。その中で、快適で回遊性のある歩行者動線を確保することとされている。
- 山下ふ頭地区の再開発に必要な空間を一体的に確保するために、ふ頭の中央部を横断する計画としている臨港幹線の法線を変更する。



確認の視点

確認事項	港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針との適合
自動車運搬船用 岸壁の増深	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築</p> <p>(1)海上輸送網の基盤の強化</p> <p>② バルク貨物等の輸送網の強化 (前略)</p> <p>自動車、建設機械等の主としてRORO船で運ばれる貨物は、我が国の主要な輸出品の一つである。これらの物資の低廉な輸送は、我が国における産業の国際競争力の強化と国民生活の質の向上のために重要である</p> <p>このため、臨海部や内陸部における企業立地、船舶の大型化等に適切に対応し、効率的で安全性・信頼性が高く、環境負荷の小さい輸送サービスを提供できるように、大水深の国際物流ターミナルを整備する</p>
臨港道路の変更	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築</p> <p>(2)臨海部の産業立地・活動環境の向上 (前略)</p> <p>ターミナル隣接地における大型特殊貨物を円滑に輸送するための措置や幹線道路網とのアクセスの確保について関係機関と連携して取り組む</p>